

道徳学習指導案（6年）

1 主題名 誠実につくす（内容項目 1－(4) 正直・誠実）

2 資料名 「ランドセルにつめて（自作資料）」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

高学年1－(4)「誠実に、明るく心で楽しく生活する」は、過ちや失敗を正直な心や真面目さで乗り越え、明るく誠実な生き方を大切にすることを育む内容項目である。

積極的で健康的な自己像を描くためには、自己の過ちを認め、改めていく素直さや誠実さをもち、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切である。過ちや失敗はだれにも起こりうることであり、また、その過ちや失敗に対して、うそやごまかしで自己保身を図りたくなる弱さも人間は持っている。しかし、それらはあくまでも一時しのぎ的なものであり、真の解決には至らず、他者の信頼を失うどころか、自分の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責などが生じる。それを乗り越えるのが正直な心であり、自分に対する真面目さであり、のびのびと過ごそうとする心の明るさである。自己の向上を望み、多くの人とのかかわりを広げていく児童が、より明るく楽しく生きていくためには、自分に対して誠実であることが、他の人に対しても誠実であることに通じることを理解し、それによって、みんなと共に楽しく生活していこうとする態度を養うことが大切である。

(2) ねらいにかかわる児童の実態 <省略>

(3) 資料について

本資料「ランドセルにつめて」は、正直でありたいという気持ちとごまかしたくなる人間の弱さゆえの気持ちとの葛藤を取り上げ、人間の弱さを認めるとともに、それを越えた正直な行為の大切さについて考えるために、自作した資料である。

主人公の健吾は、友達の図工の作品を誤って壊してしまう。正直に言わなくてはいけないと分かりつつ、自分の失敗をごまかしてしまう。帰宅後も気になって仕方ない健吾は、テレビに映るキャッチフレーズを見て、ある決意をする。

この資料から、正直であることの意義を広げるために、ごまかしたくなる気持ちが人間の弱さとしてあることを認めた上で、それを乗り越えて「みんなが気持ちよく過ごせるために」正直でありたい、「明るいクラスにするために」正直でありたいと、弱さを乗り越えた正直な行為が大切であることに気付かせていきたい。

4 指導方針

- 葛藤場面を想起しやすい「正直・誠実」を取り上げ、経験や読み物資料をもとに、正直になる行為とごまかす行為の判断理由を話し合い、道徳的価値の大切さは分かりながらも人間の弱さゆえに迷う気持ちに気付けるようにする。
- 「それでよいのか」「なぜよいのか」を話し合い、ごまかしやうそといった弱さを乗り越えた上での「正直であること」の価値を考えられるようにする。
- 主人公の行為の判断理由について考えたことを、前時の「心のものさし」に照らし合わせることで、主人公の行為の判断理由を多面的・客観的にとらえることができるようにする。

5 研究とのかかわり

本研究では、児童の道徳的判断力を高めるために、「心のものさし」を軸に据えた連続型道徳学習を行い、自作の読み物資料を活用して行為の判断理由を考えることが有効であることを明らかにする。

本時は、連続型道徳学習の第2時（「心のものさし」に照らし合わせる）に当たり、自作の読み物資料の主人公の行為を正直でありたいという気持ちと人間の弱さゆえにごまかしてしまう行為について考え、「心のものさし」に照らし合わせていく。「それでよいのか」「なぜよいのか」を話し合うことによって、児童が「心のものさし」のより高い段階の行為の判断理由や多様な行為の判断理由に気づき、行為を判断する見方や考え方が動機重視、多面的・客観的になったかどうかを検証する。

6 本時の展開 (2/3)

(1) **ねらい** 正直になる行為とごまかしてしまう行為の判断理由を話し合うことを通して、「周囲が明るくなるから」「自信をもって前向きにかかわれるから」というより尊い考えをもって誠実に生きようとする判断力を培う。

(2) **準備** 読み物資料、ワークシート、場面絵①②③、第1時につくった「心のものさし」の掲示物
道徳「心のものさし」学習ファイル

(3) **展開**

学習活動	時間	主な発問(・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点
1 本時の学習課題をつかむ。	5分	○失敗をしてしまったとき、その失敗をかくしますか、認めますか。 ・ 恥ずかしいからかくす ・ どうせばれるから認める	○失敗した経験を想起させ、児童の意識を「正直・誠実」に向かわせ価値への方向付けを行う。
2 資料を読み、主人公健吾の行為の判断理由を考える。	25分	○行ったり来たりした健吾のいろいろな思いとはどんな思いだと思いますか。 ・正直に言わないといけ ・だまっていれば分からない ・正直に言った方がいいけど、できない ○家に帰ってからの健吾は、どんな気持ちでいたと思いますか。 ・ゲームをしていても楽しくない ・正直に言えばよかった ・このままごまかしてしまおう ◎健吾はどんなことを考えて「はっとした」のでしょうか。 ・自分がどう思われるかばかり考えていた ・他の人が疑われてしまった ・クラスのために正直にならなくてはいけ ○健吾がランドセルにつめたのは、どんな「心のものさし」だと思いますか。 ・自分もみんなも気持ちよく過ごせるように正直に言おう ・みんなに迷惑かけたから謝ろう	○正直な行為は大切と分かりながらも容易にできないことを取り上げ、その理由を考えながら人間の弱さに触れていく。 ○「同じ思いをしたことはありませんか」と主人公と児童の気持ちを重ね合わせる投げかけをして、児童に自分のこととしてとらえさせていく。 ○児童から出された意見を「それでよいのか」「なぜよいのか」「なぜだめなのか」「あなたは どう思う?」という言葉でつないでいき、考えが深まるようにする。 ○児童の意見を色紙に書き、大切にしたい考えの順に並び替え、前時につくった「心のものさし」と照らし合わせる。
3 今までの自分を振り返る。	5分	○今までに自分の失敗を、ごまかさずに正直に言えたことはありますか。 ・友達の約束を破ってしまった時、理由をごまかそうと思ったけれど、正直に謝ることができた	○今までの自分がどうであったか振り返り、自分とのかかわりで「正直・誠実」をとらえられるようにする。
4 本時を振り返って、感想を記述・発表する。	10分	○正直であることのよさを振り返り、大切だと思ったことを書きましよう。 ・失敗した時は素直に認めて、自分のためにもみんなのためにも、明るく楽しい生活が送れるようにしたい	○振り返りの時間を十分とり、児童の見方や考え方の変化をとらえられるようにする。

(4) **板書計画**

場面絵③

お互いに気持ちよく過ごすために、正直に言おう

みんなに迷惑をかけたから謝ろう

友達が疑われたままなのは悪いから

すっきりしたいから正直に言おう

場面絵②

家に帰ってから

はっとした

- 正直に言えばよかった
- 今さら本当のことを言えない
- ごまかしてしまおう
- 自分がどう思われるかばかり考えていた
- 他の人が疑われてしまった
- みんなのためにも正直にならなくてはいけ

場面絵①

主人公 **健吾**

… 図工の作品をこわす

つんつんを思い

- 正直に言わなくちゃ
- だまっていればわからない
- わざとじゃない

正直に言った方がいいけど、できない(おこられるから、みんなに何が言われるから)

失敗をしてしまったとき

○認める

- 次に失敗しないように
- うしろめたい

○かくす

- 恥ずかしい
- おこられる

正直がよいのはなぜ?